

アメリカオオカイカ 東部太平洋

Jumbo Flying Squid, *Dosidicus gigas*



管理・関係機関

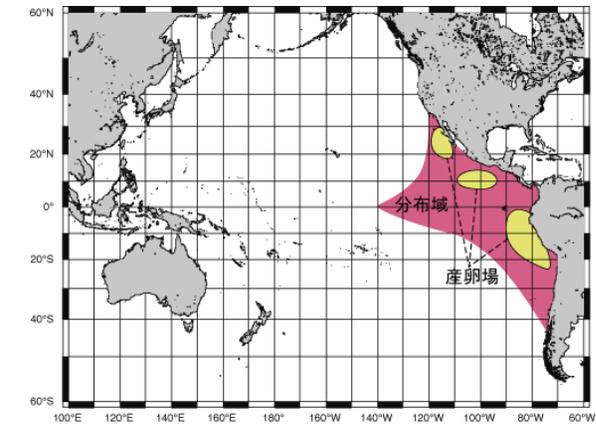
南太平洋地域漁業管理委員会 (SPRFMO)、その他沿岸国 (メキシコ政府)

生物学的特性

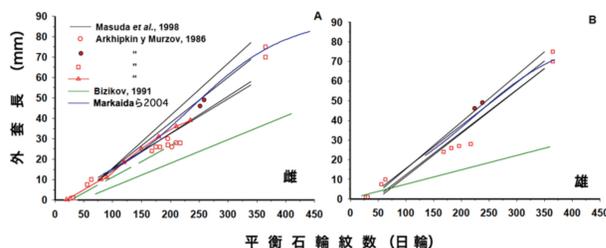
- 体長・体重：最大で外套長 120 cm、体重 60 kg
- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 4～5 か月 (中型)
- 産卵期・産卵場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 索餌期・索餌場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 食性：プランクトン、魚類、いか類 (共食い)
- 捕食者：キハダ、いるか類、マッコウクジラなど

利用・用途

塩辛、さきいか、燻製、天ぷら・フライ、カップ麺用のフリーズドライ、イカリング、魚粉



アメリカオオカイカの分布図



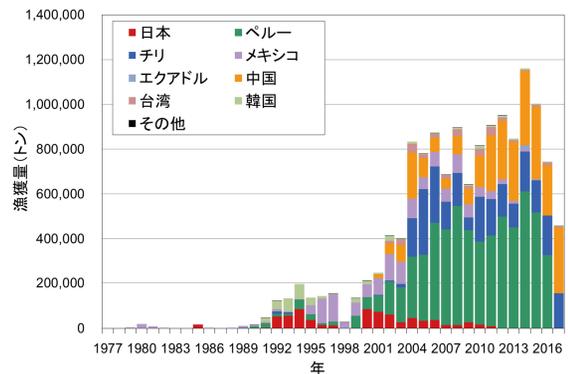
アメリカオオカイカの成長

漁業の特徴

1971 年にカリフォルニア沖やメキシコ EEZ 内で本種を対象にいか釣り調査操業を行った。また、1984 年～1994 年にかけて 同時に 1989 年に我が国の調査によってペルー EEZ 内で高密度群が発見され、1990 年から我が国いか釣り漁船 40 隻余りが出漁した。1996 年からペルー EEZ 海域は不漁となったが、コスタリカ沖公海域で新漁場が開拓された。その後、ペルー EEZ 内での操業が再開されたが、2001 年以降、コスタリカ海域での操業はほとんどなくなった。2000 年以降、ペルー、チリ、メキシコなどで、沿岸域における零細漁民による日帰りの手釣り漁業が発展し、現在に至っている。近年、本種は世界的な需要の高まりから国際原料となっている。近年はペルー沖やチリ沖の公海において、中国船を主体とする外国いか釣り漁船による漁獲が急増している。我が国は、2002 年以降、主としてペルー EEZ 海域で操業してきたが、ペルーは、2012 年以降、沿岸零細漁業者への保護対策として外国船だけでなく自国の中大型いか釣り船の操業も認めていない。このため、当年 1 月以降、当該水域で日本漁船の操業ができない状態が続いている。近年は公海での中国船の漁獲量が増加している。

漁獲の動向

全漁業国による総漁獲量は、1991 年頃から増加を開始し、韓国、日本、メキシコ、ペルーの漁獲を中心に 2000 年には 20 万トンに達し、中国の参入とペルーの漁獲増により 2002 年には 40 万トンに達した。その後の中国、ペルーおよびチリの漁獲増加により 2004 年には総漁獲量は約 80 万トンに達し、それ以降変動はあるものの 80 万トン前後の高い漁獲量が維持されている。2014 年は 116 万トンに達し、2008 年以降、いか・たこ類の単一種として世界最大漁獲量となった。2018 年の SPRFMO の報告によると、2017 年の漁獲量は、中国 29.6 万トン、チリ 15.4 万トン、台湾 0.7 万トンであった。総漁獲量は 70 万トン以上に達したと推定される。我が国の漁獲量は、1992～1995 年にかけて 4 万～8 万トンであったがその後減少し、2000 年に再び約 6 万トンに増加し、以降 2011 年まで 1 万～7 万トンで推移した。2012 年以降、我が国の漁獲はない。

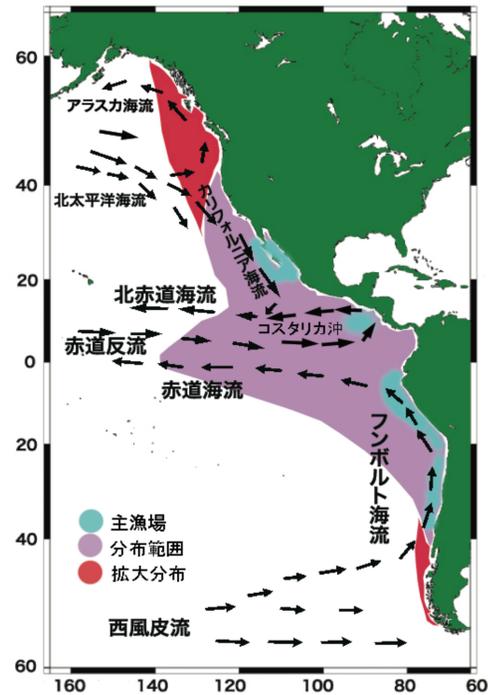


アメリカオオカイカの国別漁獲量

2017 年の国別漁獲量は SPRFMO 会議報告値からの暫定値。

資源状態

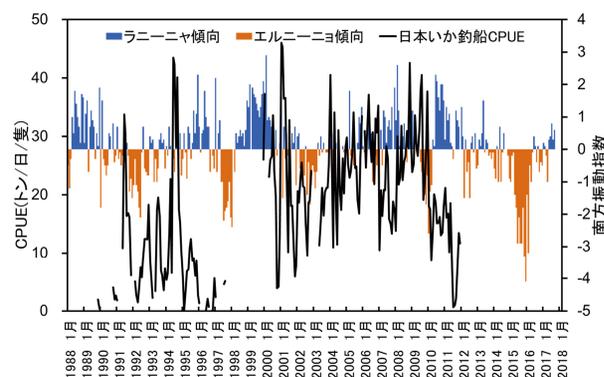
ペルー海域における資源について、当海域の我が国いか釣り漁業の CPUE は、1991～1995 年の期間においては高かったが、1996～1997 年にかけて低下した。1997/1998 年の前世紀最大規模のエル・ニーニョ発生後、2000 年以降は上昇に転じた。ペルーの沿岸零細漁民のいか釣り CPUE 水準は、2010 年は低かったが、2011 年に回復し、2012 年 1 月以降にさらに上昇して資源は高位となった。2014 年にペルー政府機関により行われたベイズ型プロダクションモデルを用いた資源評価では、現在の同資源に対する漁獲死亡係数は F_{MSY} 水準よりも十分低く、乱獲状態には至っていないと評価されており、資源水準は高位、資源動向は安定と判断されている。しかし、2015 年後半から 2016 年前半まで赤道東太平洋海域での強いエル・ニーニョにより、本資源の漁獲量は各国とも減少した。コスタリカ海域については、1996 年(平常年) および 1997 年(エル・ニーニョ期) は好漁であったが、1999 年(ラ・ニーニャ期) は不漁であった。2001 年以降操業はほとんどないため、以降の資源状態は不明である。チリ海域およびメキシコ海域での 2000 年以降の資源状態に関する情報も不明である。



アメリカオオアカイカの分布と主な海流
 ■の範囲はかつて報告されていた本種の分布範囲、■は最近年に分布拡大したと思われる範囲、■は主漁場。

管理方策

各主要沿岸国が自国 EEZ 資源について管理方策をとっている。ペルー EEZ については、ペルー政府がプロダクションモデルによって算定された MSY を基に漁獲割当を決定する。2017 年の漁獲割当は 50 万トンであった。2012 年以降、外国漁船の入漁を認めていない。2014 年には、これまで許可していなかった自国中型いか釣り船操業許可を検討している。チリ EEZ については、チリ政府が、チリ中央部の第 15 州から第 12 州までの海域において、大規模漁業と零細漁業とに分けて、漁獲割当 (Quota) を決定している。メキシコ EEZ については、メキシコ政府が管理するが、詳細不明である。



日本のいか釣り漁船によるペルー海域 (200 海里内) におけるアメリカオオアカイカ CPUE (トン/日/隻) の月別変化およびエル・ニーニョ指標となる南方振動指数の月別変動

アメリカオオアカイカ (東部太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	ペルー海域・チリ海域：高位
資源動向	ペルー海域・チリ海域：不安定
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	74.5 万～116.2 万トン (全域) 最近 (2016) 年：74.7 万トン 平均：94.2 万トン (2012～2016 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.1 万トン (ペルー海域) (2012 年のみ、※ 2012 年以降は操業できていない)
管理目標	2017 年ペルー EEZ 内 XV～XII 州海域：漁獲割当 50 万トン 2017 年チリ EEZ 海域：漁獲割り当て 20 万トン
資源評価の方法	—
資源の状態	不明
管理措置	ペルー EEZ 海域：外国漁船の 80 海里までの入漁制限 (2011 年)、これまで許可されていなかった自国中型いか釣り船操業許可の検討中 (2014 年)
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—